

駐妻のヒューストン日記

第207回 山口純子 さん

2019年冬に夫からヒューストンへの転勤の話聞いた時、ヒューストン＝NASAのイメージしかなかった私は、あまりの衝撃にその場でGoogle mapで位置確認したことを今でも鮮明に覚えています。初めてのアメリカ生活を期待する一方、子供達の学校生活や車生活に順応できるかなど、不安な部分も入り混じりながらバタバタと新生活がスタートしました。当初、順調に思えたアメリカ生活でしたが、約半年後にコロナ流行により私達の生活は一変しました。特にまだまだ英語を理解できなかった子供達にとってオンライン授業はチンプンカンプンで、親のサポートなしでは太刀打ちできず、更に活動が制限される中で閉塞感漂う日々でした。それでも何とかこの状況を打破したいと「今できることを全力で楽しもう！」と気持ちを切り替えました。

我が家は旅行が好きなので、コロナ禍でも楽しめる国立公園巡りをすることにしました。その中でもビッグ・ベンド国立公園へのロードトリップがとても印象に残っています。ここは辺鄙な場所なので、国立公園の中でも訪問者数が少ないというレアな感じと、星空観測地として有名だということ、そしてテキサス州内にあることが行く決め手となりました。天体望遠鏡と炊飯器を忘れずに車に積んで出発！片道約10時間の長距離ドライブでしたが、そんな疲れも吹き飛ばすくらいアメリカならではの壮大な景色に家族全員が圧倒されっぱなしでした。特にリオグランデ川、セント・エレナ・キャニオン、バランスロックが素

晴らしかったです。リオグランデ川は高台から川の大胆なうねりを一望でき、川の向こう側はもうメキシコです。セント・エレナ・キャニオンとバランスロックはオフロードを車で走り、トレッキングでは岩をよじ登ったり、絶壁ギリギリの道を歩くなど、冒険気分でもとても楽しかったです。更にトレッキングをした最後には、まるでご褒美を貰ったかのような息を呑むほどの景色が待っていました。

宿泊は隣のターリングにあるホテルに泊まりました。バウシングキャッスルのように常に空気を通したドーム型の変ったホテルで、ベッドルームの天井は透明で星空を見ながら眠ることができるのです。夜になると満点の星空の下でバーベキューをしながら星空観測を楽しみました。月や土星の輪のほか、りゅうぎ流星群が見られるラッキーも重なり、流れ星もたくさん見ることができました。大人は露天風呂気分でホットタブに入りながらビールを飲む幸せ。そして朝は地平線から昇る太陽の光で目覚め1日の活動が始まります。このエンターテイメント感満載のホテルは大人も子供も大満足の滞在となりました。

なかなか海外旅行に行けない時期だからこそ、アメリカ国内の大自然に触れる機会が増えました。次はどこに行こうかと妄想を膨らませて、これからはアメリカ各地の大自然から全身にエネルギーチャージをしたいと思います。



ピーカンキッズ ～読み聞かせの会～

いよいよ図書館では福音館書店の子ども向け雑誌、計6冊の定期購読が始まりました。今回はその初回である11月号の絵本をご紹介します。それぞれの雑誌には対象年齢が書かれておりますが、その年齢の本を選らばなければいけないということはないと思います。年齢を超えてお子さんが読みたいもの、お父さんお母さんが読みたい絵本を選び、楽しめることが一番大切だと思います。少しでも多くのお子さんが絵本を手に取り、今まで以上に絵本の世界を楽しむ機会になってくれることを願うばかりです。

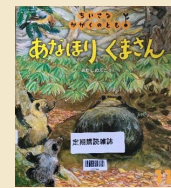
子どものとも年少版「ひとりぼっちのけいとだま」 小野寺悦子 文 ささめやゆき 絵

おへやのなかでひとりぼっちのけいとだま、さびしくなると家のそとへ旅に出ます。ころりころころ、くるくるくるりなどのオノマトペがたくさん出てくるので、我が家では読み聞かせをしていると子どもと一緒に「ころりころころ」と嬉しそうに声を出していました。



ちいさながくのとも「あなほり くまさん」 あかしのぶ さく

冬に向けてお母さん熊が冬眠用の穴をほります。その中に入って草のふかふかベッドで遊ぶ子熊たち。ハイジを思い出すような憧れのベッド。読んだ後には毛布で冬眠ごっこをしたくなります。



子どものとも年中向き「まっくらけーのけっけさん」 土田佳代子 文 垂石眞子 絵

「ねないこだれだ」より対象年齢が少し上の、早く寝ないとおぼけがくるよというお話。「いつまでもさわいでいるよ、けっけさんがきて つれていかれちゃいますよ。」けっけさんってねずみかな、おぼけかな。いえいえ、もっと怖いもの。どんなかな。するつと部屋に入ってくるかもしれない、と子どもたちは心配になります。早く寝なさい、と10回言うより、この本を1回読むほうが効果的かもしれません。我が家では効果てきめんでした。



子どものとも「ゴリラ」 小風さち 文 阿部知暁 絵

絵を担当されている阿部知暁さんは、なんと36年もゴリラの絵を描き続けていらっしゃるゴリラ愛に溢れた方です。ページをめくるとゴリラがこちらに話しかけてきます。各ページのゴリラの絵ひとつひとつが本当にリアルで、今にも動き出しそうです。特にゴリラの目がまるで生きていてかのように、他の絵本とは一線を画した雰囲気を出して必読です。



月刊たくさんのふしぎ「からだの中の時計」 吉村崇 文 いとうあや 絵

小学3年生以上対象とのことですが、大人も存分にたのしめる科学絵本です。絵本というくくりで子どものものとされるのはもったいないと感じる月刊誌です。

今月号は体内時計にまつわるお話。様々な動物を暗い部屋に入れて体内時計の変化をみる実験やその仕組みについてわかりやすく解説されています。生得的に早寝早起きだったり、遅寝遅起き傾向といった体質のもとになる時計遺伝子お話も紹介されています。最終ページの後ろについて付録「ふしぎ新聞」も色々なコーナーがあり必見です。また、「おいしい住宅」の大根のおうちがおすすめです。



三水会センターには今回ご紹介した福音館書店の子ども向け雑誌の過去号が既にたくさんあります。場所は学習漫画の歴史や伝記の向かい側の書架です。雑誌自体は薄いので背表紙の書名が読みにくいものもあり、手に取りづらいと思っている方も多いかもしれませんが、ハードカバーにはない人気シリーズの絵本などもあります。ぜひお気に入りの一冊を見つけてみてください。

(下保木真澄)

ピーカンキッズ 今後の開催予定 *スタッフは随時募集中です。

あそぼーかい pecan.asobo@gmail.com

2月3日(木)

2月のあそぼーかいは開催の一週間前に予約サイト(対面)やZoomリンク等の詳細をヒューストン日本商工会Facebookページ、ヒューストンなびに掲載します。やむをえず中止や予定変更になる場合も同様です。

読み聞かせの会 houstonyomikikase@gmail.com

催日は未定です。HPにてご確認ください。